overflowing tears
joyful & sad

"a new fine day"
photo exhibition
by kishin shinoyama

Shinoyama

新・晴れた日 篠山紀信：2021年5月18日(火)－8月15日(日)

[会場]東京都写真美術館 3階展示室(第1部)／2階展示室(第2部)

[開館時間]10:00－18:00入館は閉館の30分前まで [休館日]毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館)

[観覧料]共通チケット：一般1200円／学生950円／中高生・65歳以上600円(第1部もしくは第2部のみ：一般700円／学生560円／中高生・65歳以上350円)

※小学生以下、都内在住・在学の中学生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名まで)は無料

[主催]第1部：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 第2部：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

東京都写真美術館 [恵比寿ガーデンプレイス内]
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

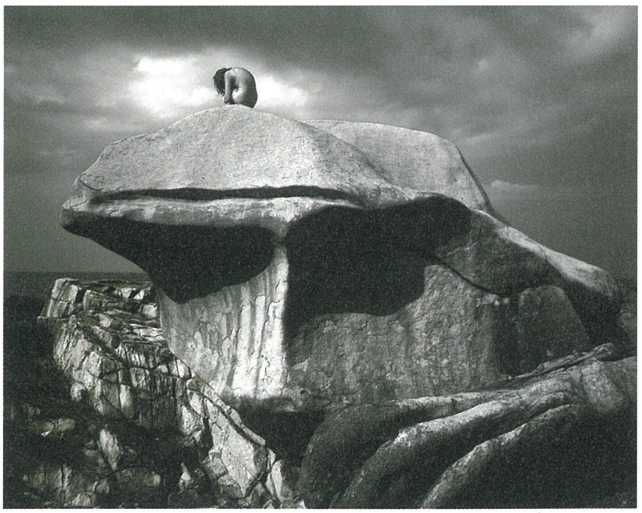
文化でつながる。未来とつながる。
THE FUTURE IS ART
Tokyo Tokyo FESTIVAL

新・晴れた日 篠山紀信

写真は死んで行く時の記録。
嵐の日も雨の日も
僕が撮る写真は、いつも晴れた日。
篠山紀信

時代の熱量をとらえた写真によって、1960年代から活躍を続ける篠山紀信。数多くの雑誌の表紙やグラビアを手がけ、写真家として時代をつくり出してきました。1974年に『アサヒグラフ』誌で連載され、後に写真集にまとめられた『晴れた日』は、篠山紀信の特徴を凝縮した一冊で、「写真は生まれながらにして大衆性を背負っているメディア」と自身で語るように長嶋茂雄や輪島功一、オノ・ヨーコなど、誰もが知るアイコンをちりばめながら、広範に社会の動きを捉え、昭和という時代の尖鋭な批評となっています。

「新・晴れた日」と題した本展は、この『晴れた日』の構造を使って、二部構成で60年間にわたる篠山紀信の約110作品を展覧します。第1部では写真界で注目を集めた1960年代の初期から、『晴れた日』や1976年のヴェネチア・ビエンナーレでも出品された『家』ほか、その後の幅広い活躍の原点となる1970年代までの主要作品で構成。第2部では、1980年代以降の作品を中心に、バブル経済による変貌から、2011年の東日本大震災を経て、2021年に向かい再構築される東京の姿まで、創造と破壊、欲望と不安が相即不離な変化の時代をとらえた作品を紹介します。

1


2

3

4

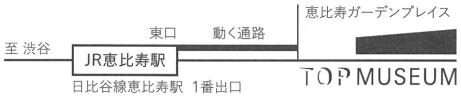
5

6

1.〈誕生〉1968年／2.〈晴れた日〉1974年 東京都写真美術館蔵／3.〈家〉1972年 東京都写真美術館蔵／4.〈TOKYO NUDE〉1990年／5.〈ATOKATA〉2011年／6.〈THE LAST SHOW〉坂東玉三郎 2010年

Photo by Yoshiki Nakano

篠山紀信　1940年東京生まれ。日本大学藝術学部写真学科在学中の61年に広告写真家協会展APA賞受賞。広告制作会社「ライトパブリシティ」を経て、68年よりフリー写真家として活動開始。66年東京国立近代美術館「現代写真の10人」展に最年少で参加。76年にはヴェネチア・ビエンナーレ日本館の代表作家に選ばれるなど、その表現は早くから評価を受ける一方で、71年より『明星』の表紙を担当して以降、写真家として時代を牽引する存在となる。70年日本写真協会年度賞、72年芸術選奨文部大臣新人賞、73年講談社出版文化賞、79年毎日芸術賞、98年国際写真フェスティバル金賞、2020年菊池寛賞など受賞歴多数。



JR恵比寿駅より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分
当館には専用の駐車場はございません。お車でご来場の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報はホームページをご覧ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3（恵比寿ガーデンプレイス内）
TEL:03-3280-0099　FAX:03-3280-0033　www.topmuseum.jp

TOP MUSEUM